

平成22年3月期 第1四半期決算短信

平成21年8月5日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 キョーリン
コード番号 4569 URL <http://www.kyorin-gr.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山下 正弘

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 伊藤 洋

TEL 03-3293-3420

四半期報告書提出予定日 平成21年8月13日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第1四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	23,289	12.2	3,156	217.0	3,417	178.2	1,976	265.8
21年3月期第1四半期	20,756	—	995	—	1,228	—	540	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	26.44	—
21年3月期第1四半期	7.22	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第1四半期	128,711	98,416	76.5	1,316.36
21年3月期	124,552	96,501	77.5	1,290.67

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 98,416百万円 21年3月期 96,501百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	4.00	—	9.00	13.00
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期(予想)	—	10.00	—	35.00	45.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	43,100	7.1	2,500	101.0	2,900	146.7	1,500	—	20.06
通期	96,400	6.1	11,500	28.5	12,300	33.6	7,300	258.3	97.64

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第1四半期	74,947,628株	21年3月期	74,947,628株
② 期末自己株式数	22年3月期第1四半期	183,568株	21年3月期	179,456株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第1四半期	74,765,393株	21年3月期第1四半期	74,817,386株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は4ページ【定性的情報・財務諸表等】

3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

株式会社キョーリン（以下「当社」）グループの中核事業が属する国内医薬品業界の当第1四半期連結累計期間の状況は、国内外の市場競争が激化するなど経営環境はこれまで以上に厳しさを増し、また、薬価制度改革についての議論が本格的に開始されるなど先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況下、当社グループの当第1四半期連結累計期間の業績は下記の通りとなりました。

売上高	232億89百万円	（前年同期比	12.2%増）
営業利益	31億56百万円	（前年同期比	217.0%増）
経常利益	34億17百万円	（前年同期比	178.2%増）
当四半期純利益	19億76百万円	（前年同期比	265.8%増）

販売の状況につきましては、以下のとおりであります。

①医薬品事業

国内における新医薬品では、営業活動を呼吸器内科・耳鼻科・泌尿器科に重点化するFC（フランチャイズカスタマー）戦略及び卸店政策を強力に推進し販売力の発揮に努めた結果、189億10百万円（前年同期比14.7%増）の売上を計上いたしました。主要製品では、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペンタサ」、過活動膀胱治療剤「ウリトス」が順調に推移しました。一方、脳血管障害・気管支喘息治療剤「ケタス」、活性型ビタミンD3製剤「ロカルトロール」は前年を下回る実績となりました。なお、広範囲経口抗菌薬「ガチフロ」につきましては、平成20年9月30日付けで自主的に販売を中止しております。

海外新医薬品他では、広範囲抗菌点眼剤「ザイマー（導出先：米国アラガン社）」のロイヤリティ収入の減少及びその他製品の売上減少により売上は5億92百万円（前年同期比31.2%減）となりました。また、杏林製薬株式会社は、平成21年7月27日付けで、広範囲合成抗菌剤「ガチフロキサシン」を主成分とする点眼液の中国での独占的な販売権を付与する契約を千寿製薬株式会社と締結いたしました。

キョーリンリメディオ株式会社を主体とするジェネリック（後発）医薬品の売上は、日清キョーリン製薬株式会社からの承継品及び平成20年7月に発売しました追補品等により増加し、18億29百万円（前年同期比27.1%増）となりました。

②ヘルスケア事業

製薬技術を応用した化粧品事業を行うドクタープログラム株式会社の売上が8億03百万円（前年同期比6.9%増）と増加し、ヘルスケア事業全体の売上は17億19百万円（前年同期比3.9%増）となりました。

③販売促進・広告の企画制作他

販売促進・広告の企画制作事業他の売上は2億37百万円（前年同期比24.5%減）となりました。

当社グループの中核事業における研究開発の状況につきましては、感染症、免疫・アレルギー、代謝性疾患に研究領域を重点化し資源を集中的に投入いたしており、杏林製薬(株)の創薬研究所、探索合成研究所、米国ActivX社、キョーリンスコットランド研究所等によって日・米・欧3極での創薬ネットワークを構築し、マーケットインの発想に基づいて、自社での創製、既存品のライフサイクルマネジメント、導入品の開発など魅力ある製品の効率的な開発を推進しています。当第1四半期連結累計期間の研究開発費は21億89百万円（前年同期比16.9%減）となりました。

利益面では、国内新医薬品における主要製品の売上が前年同期実績を上回り、連結売上高が232億89百万円と前年同期比25億32百万円増（前年同期比12.2%増）となりました。また、売上原価率は主要製品であるペンタサの自社製造等により約6ポイント改善し、売上総利益は前年同期比28億50百万円増となりました。一方、販売費及び一般管理費は日清キョーリン製薬(株)の吸収合併等により前年同期に対し6億90百万円増加いたしました。その結果、営業利益は前年同期比21億60百万円増加し、31億56百万円（前年同期比217.0%増）となり、当第1四半期連結累計期間の四半期純利益は19億76百万円（前年同期比265.8%増）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の資産は、流動資産が現金及び預金、繰延税金資産の増加等により32億26百万円増加し、固定資産が投資有価証券の増加等により9億33百万円増加したため、前連結会計年度末と比較して41億59百万円増加し、1,287億11百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金、未払法人税等の増加等により、前連結会計年度末と比較して22億43百万円増加し、302億95百万円となりました。

純資産は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金の増加等により、前連結会計年度末と比較して19億15百万円増加し、984億16百万円となりました。

この結果、自己資本比率は76.5%となり、前連結会計年度末より1.0%減少いたしました。

②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、59億40百万円の収入であり、これは主に税金等調整前四半期純利益34億21百万円、減価償却費6億69百万円、売上債権の減少16億45百万円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、6億98百万円の支出で、これは主に投資有価証券の取得による支出14億99百万円、有価証券の売却及び償還による収入8億00百万円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、21億54百万円の支出で、これは主に短期借入金の減少14億20百万円、配当金の支払6億38百万円によるものです。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比較して31億87百万円増加し、155億51百万円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間は、国内新医薬品の売上が好調に推移し、加えて販売費及び一般管理費において研究開発費等の期ずれが生じたことから、第2四半期連結累計期間の予想額を上回る利益を計上しました。しかしながら、研究開発費の期ずれ分については今後の費用発生が予定されることから、平成21年5月13日に公表しました第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては現段階では変更いたしません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,110	12,223
受取手形及び売掛金	33,971	35,615
有価証券	3,437	3,500
商品及び製品	8,939	9,454
仕掛品	1,180	1,429
原材料及び貯蔵品	8,834	7,304
繰延税金資産	2,716	2,067
その他	4,271	3,680
貸倒引当金	△94	△134
流動資産合計	78,366	75,140
固定資産		
有形固定資産	16,806	17,122
無形固定資産		
のれん	859	953
その他	592	679
無形固定資産合計	1,451	1,632
投資その他の資産		
投資有価証券	25,420	23,531
繰延税金資産	4,629	5,042
その他	2,327	2,378
貸倒引当金	△291	△294
投資その他の資産合計	32,087	30,657
固定資産合計	50,345	49,412
資産合計	128,711	124,552

(単位：百万円)

当第1四半期連結会計期間末
(平成21年6月30日)

前連結会計年度末に係る
要約連結貸借対照表
(平成21年3月31日)

負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,342	8,258
短期借入金	2,739	4,149
未払法人税等	2,077	963
賞与引当金	1,411	2,560
返品調整引当金	147	110
ポイント引当金	65	57
その他	8,185	5,614
流動負債合計	23,968	21,715
固定負債		
社債	90	90
長期借入金	860	945
退職給付引当金	4,349	4,330
役員退職慰労引当金	43	87
その他	982	883
固定負債合計	6,326	6,336
負債合計	30,295	28,051
純資産の部		
株主資本		
資本金	700	700
資本剰余金	4,752	4,752
利益剰余金	93,614	92,310
自己株式	△255	△250
株主資本合計	98,811	97,513
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△304	△852
為替換算調整勘定	△89	△159
評価・換算差額等合計	△394	△1,012
純資産合計	98,416	96,501
負債純資産合計	128,711	124,552

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	20,756	23,289
売上原価	8,989	8,671
売上総利益	11,767	14,618
販売費及び一般管理費	10,771	11,461
営業利益	995	3,156
営業外収益		
受取利息	98	89
受取配当金	67	43
受取賃貸料	—	69
持分法による投資利益	30	3
その他	50	83
営業外収益合計	246	289
営業外費用		
支払利息	11	13
為替差損	—	10
その他	2	3
営業外費用合計	14	28
経常利益	1,228	3,417
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	11
投資有価証券売却益	70	—
その他	11	—
特別利益合計	81	11
特別損失		
固定資産除売却損	23	8
たな卸資産除売却損	31	—
特別損失合計	54	8
税金等調整前四半期純利益	1,255	3,421
法人税、住民税及び事業税	1,461	2,062
法人税等調整額	△745	△617
法人税等合計	715	1,445
四半期純利益	540	1,976

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,255	3,421
減価償却費	1,017	669
受取利息及び受取配当金	△166	△133
支払利息	11	13
売上債権の増減額 (△は増加)	762	1,645
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△187	△766
仕入債務の増減額 (△は減少)	362	1,083
その他	401	834
小計	3,458	6,768
利息及び配当金の受取額	135	135
利息の支払額	△10	△16
法人税等の支払額	△213	△947
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,369	5,940
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の売却及び償還による収入	699	800
有形固定資産の取得による支出	△786	△119
有形固定資産の売却による収入	3	—
無形固定資産の取得による支出	△25	△15
投資有価証券の取得による支出	△3,049	△1,499
投資有価証券の売却及び償還による収入	1,767	0
その他	△16	134
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,407	△698
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	350	△1,420
長期借入金の返済による支出	△49	△74
配当金の支払額	△529	△638
その他	△16	△20
財務活動によるキャッシュ・フロー	△245	△2,154
現金及び現金同等物に係る換算差額	△100	100
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,615	3,187
現金及び現金同等物の期首残高	9,599	12,363
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,215	15,551

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)

医薬品事業の売上高及び営業利益の金額は、全セグメントの売上高の合計及び営業利益の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

[所在地別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

前第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。